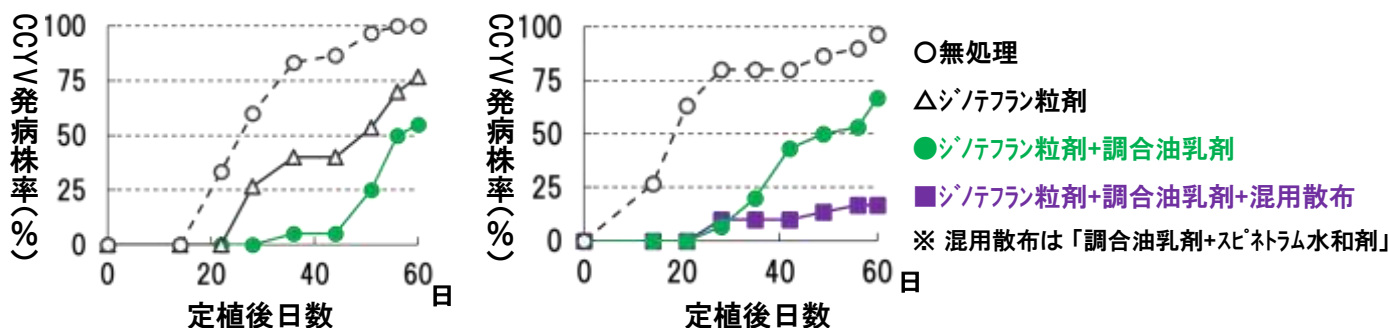


熊本県で開発した新技術

熊本県農業研究センター

2023

メロン退緑黄化病は 調合油乳剤を利用した防除体系で防ぐ



① 定植3日前ジ/テフラン粒剤処理と定植7日後の調合油乳剤散布（●）でメロン交配前までのCCYV感染を抑制可能

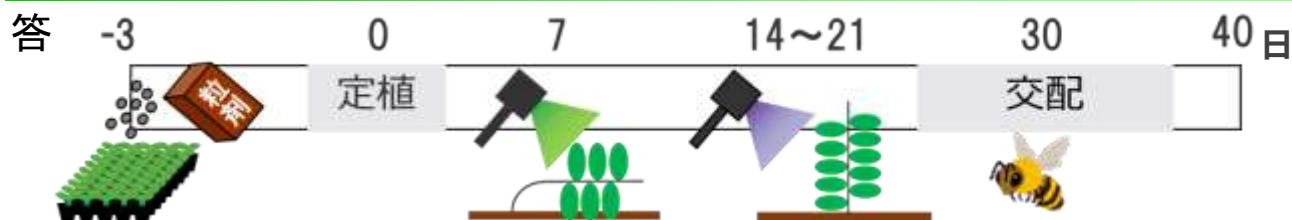
② 定植3日前ジ/テフラン粒剤処理、定植7日後の調合油乳剤散布、定植14～21日後の混用散布（■）で定植40日後までのCCYV感染を抑制可能

問 研究のねらいは？

答 メロン退緑黄化病(病原ウイルス:CCYV)は、タバココナジラミが媒介するウイルス病であり、タバココナジラミの薬剤感受性の低下に伴い、現行の防除体系では防除が困難となっています。そこで、ウイルスを媒介するタバココナジラミに対して防除効果が期待される調合油乳剤※を組み込んだ防除体系の有効性を明らかにしました。

※食用の植物油を有効成分とする物理的殺虫剤

問 防除のポイントとその効果は？



① ジ/テフラン粒剤処理

② 調合油乳剤散布

③ 混用散布（調合油乳剤+殺虫剤）

※ 殺虫剤は、スピメトラム水和剤、ビメタリン乳剤、フルサメクト乳剤の中から選択

3回の防除により、メロン退緑黄化病の発病を防ぐことができます。

問 普及するうえで注意する点は？

答 調合油乳剤は薬害が懸念されるため、高温時および薬剤の乾きにくい曇天時の散布を避けて使用してください。

生産環境研究所 病害虫研究室

熊本県農業研究センターの「農業の新しい技術」のうち、「メロン退緑黄化病は調合油乳剤を利用した防除体系で防ぐ」についてご紹介します。

当センターでは、農業者の所得を最大化するとともに、環境にやさしい農業や地球温暖化にも対応できるよう、新品種の育成、新たな栽培・飼養管理技術の確立等の研究に取り組んでいます。生産現場に普及・定着を図る研究成果は、「農業の新しい技術」として公表しています。

研究成果「メロン退緑黄化病は調合油乳剤を利用した防除体系で防ぐ」は、メロン退緑黄化病の防除を目的に、調合油乳剤を組み込んだ防除体系の有効性を明らかにしました。調合油乳剤はウイルスを媒介するタバコナジラミに対して防除効果が期待されるものです。